コラム④　2019年に出会った名花・迷花たち

ニセコアンヌプリ湿原、チシマザサに囲まれた小さな湿原で6月に確認したミクリ属とコウホネ属が気になり、8月に再訪。湿地裂の割れ目池塘でイガ栗状の実をつけた、**ホソバウキミクリ**(ガマ科)が4個体開花、結実しています(図A,図B)。水深18cm、花序は分枝せず雌性頭花は腋上性と着性、雄花下に苞葉と基本形で結実種子の形状から同定です。北海道の確実な生育地は雨竜沼湿原、知床五湖、羅臼湖などの山地湿原で、当湿原は新産地です。他の3池塘でも浮葉を確認、神仙沼にウキミクリが生育、また雨竜沼湿原は両種が同一湿原で生育と、ここも要観察です。

この湿地裂の流路が繋がる池塘、6月の根生葉は柱頭盤が黄色で緑色の果実の**ネムロコウホネ**(スイレン科)の花をつけた(図C)、標高920mは北海道一高い生育地です。この2種は絶滅危惧Ⅱ類(VU)「環境省レッドリスト2019」です。

エンレイソウ属(シュロソウ科)は多くの種や変種、交雑種があり、梅沢俊さんの「北海道の草花」で13種が解説されている。ヒグマ出没の滝野すずらん丘陵公園、私が中学生の頃、ここは山奥だった。5月中旬、シラネアオイの群生に誘われたが春植物が少なく、首を傾けたミヤマエンレイソウが多く、上を向くオオバナノエンレイソウが少ない。ならば私も首を傾けてミヤマエンレイソウを覗いてみると「子房が暗紫色」の花とご対面、**エゾミヤマエンレイソウ**(図D)だ。初めて出会った幸運な日でした。

5年振りの再会、青紫色に雪化粧のサワギキョウ(キキョウ科)、10本ほどの一群だ。以前は「アルビノか、ウィルス病じゃないの」と言われ、それ以後気が付かなかったが今年、同じ所で爽やかに咲いていた。あの時名付けた**シラユキサワギキョウ**(図E)、雨竜沼湿原で復活です。

キクザキイチゲ(キンポウゲ科)(図F)は七変化、青紫色から藤色、空色と淡くなり純白花と可憐に咲いている。青色系は本州に多く、道央以南だがここは増毛大別刈。増毛は古くから北前船で栄えた街で、ヒョットして一緒に運ばれてきたのだろうか。

沼畔草原の緑の中で青藍色の**チョウジソウ**(キョウチクトウ科)が輝いていた。石狩や空知管内の数ヶ所で、初夏の青い星群団は岩見沢の草陰でも元気でした。

（佐々木純一）